

ジャンル別アレンジ/サウンドメイク ポップス、AOR

ポップス、AORとは？

AOR＝「アダルト・オリエンテッド・ロック」
「大人向けのロック」のような意味合い。

AOR系のアーティストはスタジオミュージシャン、
セッションミュージシャンを積極的に起用、
都会的で洗練されたサウンドを作り出した。

80s以降、音楽産業が発展していく過程で
ポップで耳障りのいいものが好まれ、
AOR系のサウンド、ギタープレイは一般的になる。

現在ではAORに影響を受けた80sの日本の楽曲が
「シティポップ」と呼ばれ海外で再評価を受けている。

ポップス、AORの特徴

80sポップスの傾向として、煌びやかなシンセ、ゲートリバーブを使った派手なドラムサウンドなど、キラキラ、派手な音が好まれた。ギターもそれに負けじと高音を強調したキラキラした音色、空間系エフェクトを駆使した都会的なサウンドが流行した。

フレーズ面でもペダルトーン、分数コードなどを多用してキャッチーで耳辺りのいいプレイが特徴。往年のロック的荒々しいサウンド&プレイは影を潜め、洗練された都会的な演奏がトレンドだった。

ポップス、AORのサウンドメイク

GuitarRigのみでなく、DAW側のエフェクトも駆使。

接続順は「イコライザー」→「GuitarRig」→「エキサイター」→「コーラス」→「ディレイ」

ギターはストラトのハーフトーンを使用。

イコライザーは80hz以下をローカットして重くならないように。
3.7khzをブーストして煌びやかさを出し、
280hzをカットしてモヤモヤ感を抑えた。

アンプは真空管アンプは使わず、歪まないクリーントーンを出せる
JAZZ AMP(JC-120のシミュレート)をチョイス。
アンプ前段にペダルコンプ、後段にアナラグコーラスをインサート。

ポップス、AORのサウンドメイク

さらにDAW側でエキサイターで高音をキラキラさせ、コーラス(Waves Doubler)をかけ(GuitarRig側と併せてコーラス2段がけ)4分音符程度の長目のディレイをかけた。

コーラスの2段がけは当時のスタジオミュージシャンの流行だが、揺れ方が違うタイプを選ぶと良い。

ここで使ったDoublerはコーラスというよりピッチシフターなので音揺れがなく、GuitarRig側のコーラスとも相性が良かった。

ディレイは実音が煌びやかな分、高域が落ちて暖かいサウンドのテープディレイをチョイスしてバランスを取った。

ポップス、AORのサウンドメイク



ポップス、AORのアレンジパターン①

The image shows a musical score for two guitars. The top staff, labeled 'Gt. 1', is in treble clef with a key signature of one sharp (F#) and a 4/4 time signature. It features a melodic line with a half-step tension (a half note followed by a quarter note a half step higher) and a final quarter note. The bottom staff, labeled 'Gt. 2', is in treble clef with the same key signature and time signature. It features a chordal accompaniment with a bridge pickup sound (indicated by a 'V' in a box above the notes). The chords are Em, C, D(sus4), and D. The score is divided into four measures corresponding to these chords.

AOR寄りのロックバラードをイメージ。

Gt1のフレーズは半音テンションを含むが、開放弦を混ぜたこのような音使いはAOR系の定番。

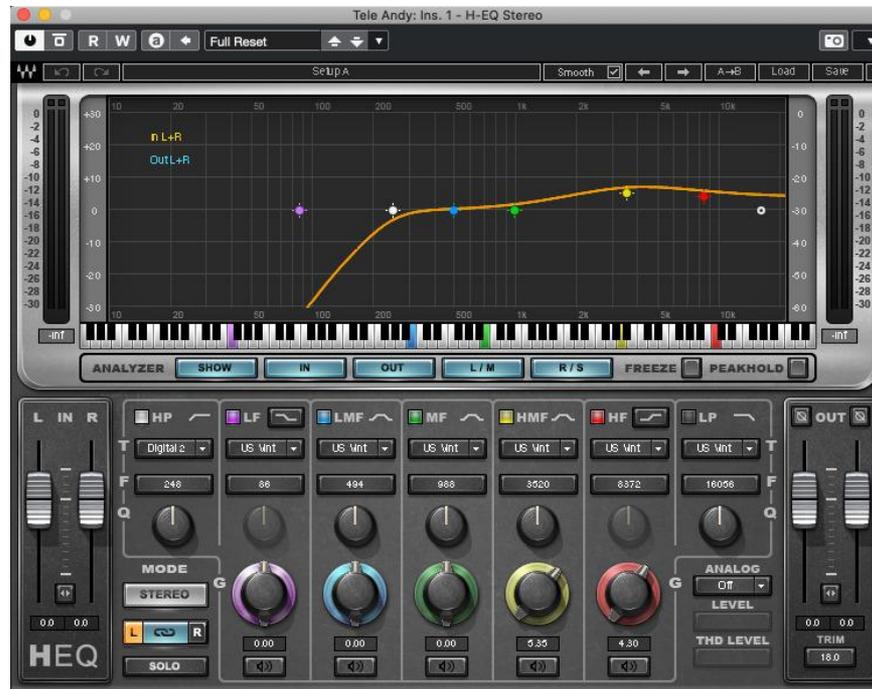
音色とも相まって幻想的に響く。

コードが変わっても同じフレーズをリフレインするのもこの時代の定番。

音色はストラト音源のハーフトーン。左右ユニゾンで2本いるが、音色をそれぞれ「ブリッジよりハーフトーン」「フロントよりハーフトーン」と変えてある。

ポップス、AORのアレンジパターン①

Gt2は歪み感を出すためJCM800系のアンプで軽めのクランチで音作り。
Gt1に比べてディレイを深めに設定、付点8分の長さでかけてある。
このパートは音程感より「シャリーン」という煌びやかさが出ればOK。
かなり極端にローカット、ハイブーストしてある。



ポップス、AORのアレンジパターン①

基礎編通りに打てばOK。

特筆するとすれば、この年代らしいタイトさを出すため、
タイミングはわりとジャストでOK。ベロシティもわりと均一で問題なし。

Gt2はピッキング順に合わせてタイミングを軽くずらして入力。

ポップス、AORのアレンジパターン①

Gt.1

タイミング、ベロシティはわりと均一でOK

ポップス、AORのアレンジパターン①

キーエディター: Ample Guitar M 01

グリッド 1/16

選択オブジェクトなし

グローバルトラック

- エクスプレッションマッピング
- ノートエクスプレッション
- スケールアシスタント
- コードエディット
- クオンタイズ
- 移動
- 高さ

レガートを調整

オーバーラップ

次の選択まで延長

レガートを適用

MIDI イベントの置き換え

設定した高さに変更

ペダルをノート長へ

オーバーラップ解除で

オーバーラップ解除で

ピッキングのダウン/アップに合わせてタイミングをずらす

Gt.2

ピッキング

ポップス、AORのアレンジパターン②

C mute ----->

Am

Gt.1

Gt.2

5 Fmaj7 C

Gt.1

Gt.2

2

2

2

ポップス、AORのアレンジパターン②

80sポップスのヒット曲をイメージ。

Gt1は常にミュートしながら16分のシーケンスをオルタネイトで演奏。刺繍音的に動く経過音が瞬間的にF/C、G/Cなどの分数コードと捉える事もできるが、これはギターに限らず80sのコードワークの特徴でもある。

サウンドは①のGt1と同じ。
やはりストラトのハーフトーンを左右でユニゾンにしてある。

Gt2はストラト音源のフロント。8分でやはり同じフレーズをシーケンスしているが、こちらはR、2nd、5th、などのコードともぶつかりにくい音だけ使っている。この3音はリフレインに適していてよく使われる。コードが展開しても同じフレーズを弾くため、結果的にテンション感のあるフレーズになっている。

ポップス、AORのアレンジパターン②

Gt1はブリッジミュートで打てばOK。

高音側(8分ウラ)にアクセントがあるので、こちらを強めのベロシティで。

低音側は隙間を埋めるような、弾く時にタイミングを掴むような目的で弾いてるので、ベロシティ弱めでOK。

和音は全てアップのタイミングなので高音→低音側にタイミングをずらして入力。

Gt2は均一にカチッと打ってOK。

ポップス、AORのアレンジパターン②

Gt.1

ピッキングのダウン/アップに合わせてタイミングをずらす

高音弦側を強め、低音弦側を弱めで打つ

ポップス、AORのアレンジパターン②



The screenshot displays a digital audio workstation (DAW) interface for a guitar track named "Amplifier M 01". The main area shows a guitar tablature with red horizontal lines representing notes on a grid. A text box labeled "Gt.2" is positioned above the notes. Below the tablature, a velocity graph shows vertical red bars representing the dynamics of the notes. The interface includes a sidebar on the left with various editing tools and a top menu bar with options like "グリッド" (Grid) and "ペロシティ" (Velocity).

タイミング、ペロシティは割と均一でOK

ポップス、AORのアレンジパターン③

Em C G D/F#

8va
mute & play with 1/8 dot delay

付点8分のディレイを活用したフレーズ。最近のJ-Popでもよく使われる。
16分のフレーズに聞こえるが実際は8分音符で弾いてるだけ。

セッティングは・フィードバック低め(2~3回返ってくるぐらい) ミックス50%
ディレイ音がフレーズと同化するように調整すればOK。
その上で、実音とディレイ音に差がつくよう、
ディレイ音にはローカットとハイカットを入れてある。

打ち込みは難しいところはなし。
割とジャストに打ち、ウラ拍を弱めにしてあるのと、
パーカッシブにするためデュレーションをやや短めに切っている。

ポップス、AORのアレンジパターン③

The screenshot displays the Ample Guitar M 01 software interface. The main area is a fretboard grid with a vertical axis for frets (C1 to C8) and a horizontal axis for time. A red dashed line indicates a guitar arrangement pattern, showing a sequence of notes across various frets. Below the fretboard, a vertical bar graph shows the amplitude of the notes over time. The text "パーカッシブさを出すため、デュレーションは短めに" is overlaid on the grid, indicating that the duration of the notes is kept short to achieve a percussive sound.

パーカッシブさを出すため、デュレーションは短めに